

「面縄中学校の上面縄シヨンマイカ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊仙町立面縄中学校

2 学年・人数

1年生から3年生（計71人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月5日（火）面縄中学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月10日（日）面縄中学校体育大会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

上面縄シヨンマイカ踊り（うえおもなわしよんまいかおどり）

(2) 由来

大正時代に、京都の紡績工場で働いていた上面縄出身の若い男女が富山県八尾町の行事「風の盆」で行われていた「越中おわら節」をもち帰り、唄と踊りを若者たちに伝承したことが始まりだと言われている。その後、戦前、戦中、戦後を通して伝承される過程において、「越中おわら節」とは趣の異なる上面縄集落独特の形で今日まで継承されている。

(3) 構成等

歌詞が28番まであり、曲調は島唄と共通している。太鼓の音に合わせて、男性が歌う上の句に、女性が下の句をつけ男女が掛け合いながら歌い踊る。ゆったりしたテンポで始まり、曲が進むにつれ、テンポが速くなり、曲の終盤で、歌も踊りもクライマックスに達する。

5 保存会や地域との連携の具体

学校運営協議会から校区内にある「上面縄シヨンマイカ保存会」を紹介していただき、教頭が連携を図り、保存会の代表の方と練習や発表の日時、場所、方法等について調整を行った。練習では、約15人の保存会の方々が来校し、職員や生徒へ直接指導してくださった。発表の日（体育大会）は、保存会の方々と一緒に踊ることができた。また、地域で行われる行事（十五夜等）でも踊る機会があるため、地域行事に関する情報を共有し、生徒たちに参加を呼びかけている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校運営協議会の中で、「学校が地域に開かれ、保護者や地域との連携を強化していく」という目的を共有し、伝統芸能を継承する方法について熟議を行った。また、体育大会を発表の場に位置付けるとともに、体育大会当日、保存会の方々の参加を呼びかけ、一緒に踊ることによって、地域の中で生きる自分たちが伝承していくことへの意識付けを図った。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【練習の様子】



【体育大会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

- ・ 自分たちに，郷土芸能である「ションマイカ」を継承してほしいという気持ちが伝わってきた。
- ・ だんだん早くなるテンポに合わせて，楽しく踊ることができた。

【教職員】

練習では，保存会の方々が，母校の後輩や地域の子供たちに対して，温かいまなざしで熱心に指導してくださった。体育大会当日は，保存会の方々も一緒に踊ってくださり，体育大会に花を添えていただいた。このような取組を通して伝統を受け継いでいくことを大切に思う気持ちにつなげてほしい。

【保存会から】

- ・ 郷土の伝統芸能を伝承する機会を作ってもらってうれしい。ぜひ，子供たちが唄や踊りを覚えて，次の世代に伝えていってほしい。
- ・ 体育大会で一緒に踊ることができてうれしかった。今後も，ぜひ続けてほしい。